

平成27年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな	ふくおかふたばちゅうがっこう・こうとうがっこう				②所在都道府県	福岡県
27～31	①学校名	福岡雙葉中学校・高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	中学校	: 376名
普通科	70	35	35		140	高等学校	: 568名
	1年GCコースの生徒を中心に、2年(SGHアソシエイト経験生を含む)・3年の希望者と進めるが、その成果を発表することで全校にも広げていく。					全校生徒	: 944名
⑥研究開発構想名	国家戦略特区 FUKUOKA からはばたく女性グローバル・リーダーの育成						
⑦研究開発の概要	女性グローバル・リーダー育成のため、イノベーション創出手法である「デザイン思考」などを含めた教育課程を開発し、九州大学と共にこれに資する真の学力を涵養する教育の在り方について高大接続により研究開発を行う。また早期英語教育導入の在り方及び教科横断型学習による教育システムを小中高連携で開発する。						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	(1) 目的・目標					
		<p>これまで本校が育んできたグローバルシティズン教育に、グローバル・リーダー育成に資する教育課程と、スーパーグローバル大学創成支援(トップ型)に採択された九州大学との高大接続を加えて、国内トップレベルのグローバル教育推進校を目指す。その中で多様な文化や価値観を有する人々と協働し、グローバルな舞台で積極的に課題解決を図り、新たな価値を創造できる女性グローバル・リーダーを育成する。</p>					
		(2) 現状の分析と研究開発の仮説					
		(現状の分析)					
		平成19年度よりグローバルシティズン育成を教育重点目標に掲げ、留学・海外大学進学への推進、帰国子女の受入、海外交流校の拡充、英語教育の充実を図るなど校内の国際化を積極的に推進。平成26年度は九州大学と連携しSGHアソシエイト校としての活動を展開中。その中で生徒たちが従来の知識伝達型の学習と比較して学びへの姿勢が積極的であったという結果が出た(校内英語スピーチコンテスト意識調査より)。そこで、グローバル・リーダー育成のため、新しい教育課程と、高大接続の在り方を研究開発することが必要である。					
		(研究開発の仮説)					
		1. 「デザイン思考」等の科目を含め課題解決型学習をベースとする教育課程の研究開発を行うことで、自ら問いを立て、主体的な学びができるアクティブ・ラーナーが育つ。					
		2. スーパーグローバル大学創成支援(トップ型)の九州大学との協働により、 <u>高大接続の研究開発</u> を行うことで、高度なグローバル人材が育つ。					
		3. <u>新しい価値を創造する</u> 具体的な体験活動を <u>国内・海外フィールドワーク</u> で行うことで、クリエイティブなグローバル・リーダーが育つ。					
		4. <u>小学校で英語以外の教科(算数・理科)を英語で教える教育</u> (英語イマージョンコース)の成果と課題を追跡調査し、より優れた英語イマージョンプログラムを開発し中学と高校教育に導入することで、国際通用性を高める英語力を有した生徒が育つ。					
		(2) 成果の普及					
		<ul style="list-style-type: none"> <li>九州大学共催での「グローバル人材育成シンポジウム(仮称)」を開催する。</li> <li>SGH 公开发表会(教員対象)を実施する。</li> </ul>					

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日更新を行う学校のホームページとSGHのホームページで発表する。</li> <li>・福岡市が開催する戦略特区シンポジウムに、本校生徒を参加させ、成果を公表する。</li> </ul>
<p>⑧ -2 課題研究</p>		<p>(1) 課題研究内容  <u>テーマ 「夢をカタチにする女子」～クリエイティブなデジタルものづくり～</u>      近年急速に技術革新が進み、マーケットのニーズが急激に変化しているなか、女性の視点によるデジタルものづくりを通じて、「デザイン思考」を中軸にし、新たな価値を創造するプロセスを重視する教育課程の開発を行う。その際、課題探求型のワークショップにより、世界的な技術革新の大きな波の中で、先進的な取り組みを行っている世界の動きを理解し、日本の将来のものづくりに必要な課題を発見し、国家戦略特区・福岡から新たな価値を創造するイノベーションに様々な形で貢献していくための学び方を学ぶ。また、スーパーグローバル大学創成支援（トップ型）で採択された九州大学との連携協力により、より課題を深く理解し、解決策を導き出すための学び方を進化させていく。</p> <p>(2) 実施方法・検証評価  <b>ア. 実施方法</b>      ○教育課程の研究開発      ・総合的な学習の時間 「国家戦略特区としての福岡市を知る」「デザイン思考」      ・教科「国際教養」 科目 「比較文化ワークショップ」「グローバル経済入門ワークショップ」、「世界共通課題ワークショップ」      ・教科「外国語」 科目 「R. W. P. (リサーチ・ライティング・プレゼンテーション)」 「Discussion」      ○高大接続（九州大学）の研究開発      ・基幹教育院より真の学力の涵養のための授業の指導      ・芸術工学研究院による「デザイン思考」の指導、言語文化研究院、基幹教育院による「国際教養」の指導      ・留学生とのディスカッション      ・「グローバル人材育成シンポジウム（仮称）」の共催（教員対象、中学・高校生対象）      ○新しい価値を創造する国内・海外フィールドワーク      ・シンガポール姉妹校（カトン・セントニコラス・トアパヨ）との協働学習      ・FABlab 鎌倉、FABlab FUKUOKA βでのワークショップ      ・世界FABlab 国際シンポジウム研修</p> <p><b>イ. 検証評価</b>      ・SGH運営指導委員会による評価、指導を受ける。      ・「目標設定シート」に基づく検証評価を実施する。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等      上記⑧-2(2)ア. 実施方法「教育課程の研究開発」参照 対象は高校1年GCコースのみ</p>
<p>⑧ -3 上記以外</p>		<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価      ○デザイン思考の教材開発      主体的に新たな価値を創造できるイノベーション力を持たせるような教材開発をする。      ○小中高一貫教育による英語教育、英語による他教科の学習の研究      小学校で英語以外の教科（算数、理科）を学んだ児童の追跡調査をし、これからの英語教育を考える。</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 特になし</p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の取組内容・実施方法      ・留学生、帰国生の受入推進（平成26年度 長期留学生5名、帰国子女25名）      ・海外留学の促進（平成26年度 高校生1年間留学17名）</p>
<p>⑨その他 特記事項</p>		<p>平成26年度SGHアソシエイトに認定され、九州大学と連携しながらグローバル人材育成のための教育を進化させている。</p>

ふりがな	ふくおかふたばちゅうがっこうがっこう	指定期間	27～31
学校名	福岡雙葉中学校・高等学校		

## 平成27年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数									
a	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	100人
	SGH対象生徒以外:	人	94人	人	人	人	人	人	400人
目標設定の考え方: 国際的な問題に意識が向くことで社会貢献活動に積極的になり自己研鑽活動に取り組む生徒は増える									
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数									
b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	90人
	SGH対象生徒以外:	86人	130人	人	人	人	人	人	200人
目標設定の考え方: 課題研究などに取り組むことによって刺激を受け自主的に海外での経験を望む生徒が増える									
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	100%
	SGH対象生徒以外:	%	60%	%	%	%	%	%	80%
目標設定の考え方: グローバルな活動、研究発表などで国際的な活動を意識するようになる									
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数									
d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	10人
	SGH対象生徒以外:	人	2人	人	人	人	人	人	10人
目標設定の考え方: SGHでの活動の延長線上にある国内外の大会には興味を持って参加するようになる									
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合									
e	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	60%
	SGH対象生徒以外:	35%	35%	%	%	%	%	%	40%
目標設定の考え方: 英検2級以上取得の人数が留学経験などで増加すると予想する									
(その他本構想における取組の達成目標) 高校卒業時に論文(英語)で完成する生徒の数									
f	SGH対象生徒:								35人
	SGH対象生徒以外:		0人						30人
目標設定の考え方: エッセイライティングを適切に指導をすることにより論文を書くことができるようになる									

1' 指定4年目以降に検証する成果目標								
	25年度	26年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	目標値(34年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合								
a	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	95%
	SGH対象生徒以外:		78%	82%	%	%	%	90%
目標設定の考え方: 連携する九州大学がスーパーグローバル大学であるので進学への刺激となる								
海外大学へ進学する生徒の人数								
b	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	10人
	SGH対象生徒以外:		5人	2人	人	人	人	5人
目標設定の考え方: 海外フィールドワークや留学生との協働活動で海外大学進学への興味が高まる								
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	80%
	SGH対象生徒以外:		-	-	%	%	%	10%
目標設定の考え方: 九州大学国際教養学部(仮)のような課題研究を発展させて学ぶことができる専攻を選ぶことが予想される								
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数								
d	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	60人
	SGH対象生徒以外:		-	-	人	人	人	100人
目標設定の考え方: 国際化に重点を置く大学への進学が増えることにより大学在学中に海外へ出る生徒も増える								

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
課題研究に関する国外の研修参加者数								
a	人	0人	人	人	人	人	人	50人
目標設定の考え方: SGH対象生徒高校1、高2年の中から選抜した数で50パーセントが参加すると考える								
課題研究に関する国内の研修参加者数								
b	人	0人	人	人	人	人	人	105人
目標設定の考え方: SGH対象生徒高1、高2全員が参加すると考える								
課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数								
c	校	0校	校	校	校	校	校	10校
目標設定の考え方: 課題研究でのフィールドワークを通して連携大学・高校を増えたと考える								
課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
d	人	0人	人	人	人	人	人	30人
目標設定の考え方: 高大接続による授業などで外部人材参画者が増えたと考える								
課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
e	人	0人	人	人	人	人	人	20人
目標設定の考え方: JICA、領事館、企業から講師派遣を依頼する回数が増えたと考える								
グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数								
f	人	18人	人	人	人	人	人	50人
目標設定の考え方: 「高校模擬国連」、「九州領事会」、各大学が開催する大会等への参加者が増えたと考える								
帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)								
g	29人	30人	人	人	人	人	人	50人
目標設定の考え方: 従来の帰国・外国人留学生、外国人生徒に加えSGH関連の企画で受入れる者が増えたと考える								
先進校としての研究発表回数								
h	回	2回	回	回	回	回	回	6回
目標設定の考え方: 本校主催の研究発表会の回数及び校内での研究発表会が増えたと考える								
外国語によるホームページの整備状況								
○整備されている △一部整備されている ×整備されていない								
i	△	△						○
目標設定の考え方: 学校の概要などすべて英語で作成する								
(その他本構想における取組の具体的指標) 高大連携でのシンポジウムの実施回数								
j		0						2
目標設定の考え方: 生徒企画と教職員企画のものを実施する								

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
全校生徒数(人)	996	944	0	0	0	0	0
SGH対象生徒数							
SGH対象外生徒数							